

3 選定種の変更

今回の調査では、旧湯来町域を除く市域においても、前回の調査以後得られた情報にもとづいて選定種の見直しを行った。ただし、この見直しは全選定種について網羅的に行ったものではない。

(1) 種子植物

以前は文献記録でベニバナヤマシャクヤクとされていた株が現地調査の結果ケナシベニバナヤマシャクヤクであることがわかり、本市のフロラに加えた。本種は非常に希少で採取される危険性も高いが、生育地が古い耕作地跡に成立したスギ植林内で、栽培株の逸出である可能性があるため、今回は情報不足に選定した。一方、ジンバイソウは、前回調査以降の自然災害によって、生育地周辺が破壊され、本種の生育も危ぶまれる状況となったため新たに選定した。

情報不足としていたキエビネは、以前に生育記録がある場所の近隣で未開花株がわずかに発見されたため、絶滅危惧に変更した。

選定種の追加

ジンバイソウ 準絶滅危惧

ケナシベニバナヤマシャクヤク 情報不足

選定種のカテゴリ変更

キエビネ 絶滅危惧←情報不足

変更理由：解明度が向上したため

種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

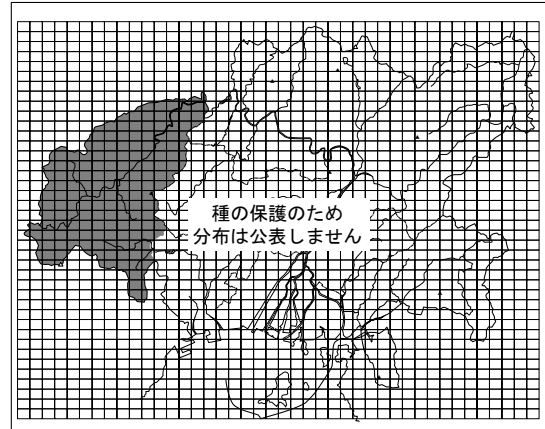
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ジンバイソウ（ラン科）

Platanthera florentii

北海道(南部), 本州, 四国, 九州に分布する多年草。広島県内では中間温帯からブナ帯に属する樹林下で見られる。

安佐南区で1998年に生育を確認したが最近の状況は不明。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

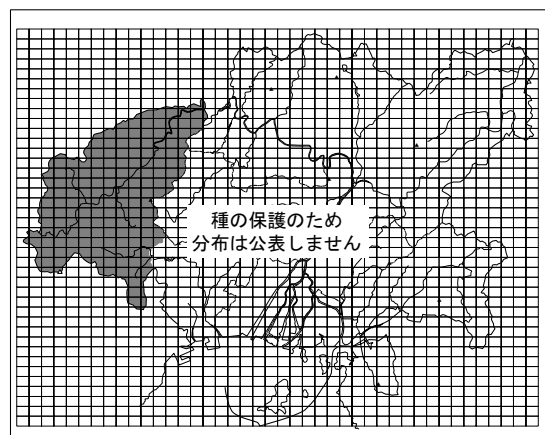
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ケナシベニバナヤマシャクヤク（キンポウゲ科）

Paeonia obovata var. *glabra*

山地林内に希産する落葉性多年草。ヤマシャクヤクによく似ているが淡紅色の花をつけ、葉の裏に毛がない。北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。特に西日本では絶滅寸前の状態である。

市の北西部で生育を確認したが、栽培品が逸出した可能性があり、明らかな自生株が確認されるまでの扱いとして情報不足とした。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

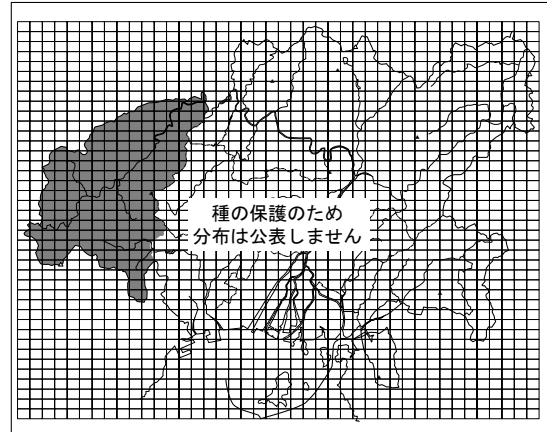
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■キエビネ（ラン科）

Calanthe sieboldii

林床に生える常緑の多年草。本州（紀伊半島，中国地方），四国，九州に分布。高さ50cmに達し，エビネに似るが，大型。花は4～5月，鮮やかな黄色。

1970年代には群落があったがその後激減し，1987年に1個体記録された。現在未開花株が発見されているが，採取圧が非常に高く，市域から絶滅する危険性が最も高い種のひとつといえる。



(2) 哺乳類

「広島市の生物」で、中区の修道学園校舎内から国内3例目となるオヒキコウモリの生息地を報告した。その後、広島大学歯学部校舎からも生息を確認した。この2例は国内で発見され得た他のすべての例と異なり、繁華街にほど近い市街地にある建築物内に存在しているということでも興味深い存在である。残念なことに、当時確認した修道学園の生息地は校舎の建て替えによって消失した。しかしながら、修道学園の努力によって、校舎内にはオヒキコウモリが生息することができる環境を再現してある。学園関係者を中心に生息地が復元されるよう誘致作戦が続けられている。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

なし

(3) 鳥類

広島県では58科292種の鳥類が記録されている(日本野鳥の会広島県支部 1998)。広島市からは53科278種の鳥類が記録されている(「広島市の生物」)。

前回調査ではブッポウソウとヤイロチョウが絶滅危惧に、オシドリ、ミサゴ、ダイシャクシギが軽度懸念に、ミゾゴイ、チュウサギ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサ、ヤマドリ、コアジサシ、コミミズク、ヨタカ、アカショウビン、オオアカゲラ、サンコウチョウが情報不足に、サシバ、ダイゼン、ハマシギ、アオバズク、フクロウ、オオヨシキリが環境指標種に選定されている。

今回の見直しでは選定種の追加はなかったが、前回調査では環境指標種に選定されていたサシバを情報不足にカテゴリを変更した。

サシバは、「改定・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」でも情報不足に選定されている。これは、サシバが利用する谷戸環境が近年減少し、それにともないサシバの繁殖個体数が減少しているためである。このため、カテゴリの変更を行った。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

サシバ 情報不足←環境指標種

変更理由：餌となるへび類やカエル、大型昆虫などの生息する農耕地と、営巣地となる森林とが接している谷戸環境が近年減少し、それに伴いサシバの繁殖個体数が全国的に減少しているため

鳥類

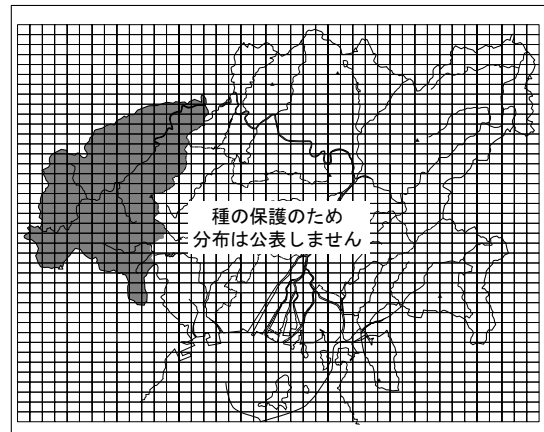
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■サシバ（タカ科）

Butastur indicus

夏鳥として日本に渡来し、農耕地のそばの山林で繁殖する。全長約50cm，翼開長約110cm。上面は褐色，下面は白く，胸と腹に褐色の横斑がある。ヘビやカエル，昆虫類などを餌とする。市域でも繁殖が確認されているが，本種の生息環境である谷戸環境（農耕地と山林が接している環境）の消失により生息地が減少している。



(4) 爬虫類

広島県には亜種を含めて、カメ目は2科4種、トカゲ目はトカゲ亜目が3科4種、ヘビ亜目は2科8種が生息しており、広島市にはその全てが生息している。

検討の結果トカゲ、イシガメを準絶滅危惧、スッポンを情報不足に選定した。

イシガメは河川の中・上流域を主な生息域としているが、近年、個体数が減少している。例えば、コンクリート護岸にすることにより、産卵場所への移動が困難となり、河川の平坦化により、中州が喪失し、産卵に適した日当たりの良い乾燥した場所がなくなって来るなど、水質悪化というよりも、環境の変化が繁殖場所の喪失を招いているように思われる。また、下流域では外来種のミシシッピーアカミミガメの侵入により、生息環境が奪われつつあるのではないかとと思われる。

トカゲは市街地周辺の人家の石垣の隙間などから出入りする光景を見かけることがあったが、コンクリート化や空積みの石垣がなくなり、生息場所が失われたように思う。

スッポンは食用とされるため、個体数が少ないのは、採集圧が高いことから減少したのか、環境の変化によるものかが不明なため、情報不足とした。また、養殖個体の逸出や外国産の個体(シナスッポン)などが持ち込まれ、遺伝的に攪乱状態になる可能性が高い。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

イシガメ 準絶滅危惧←自然誌構成種

変更理由：個体数が減少しているため

トカゲ 準絶滅危惧←自然誌構成種

変更理由：急激に個体数が減少しているため

スッポン 情報不足←自然誌構成種

変更理由：減少しているが、状況が不明であるため

爬虫類

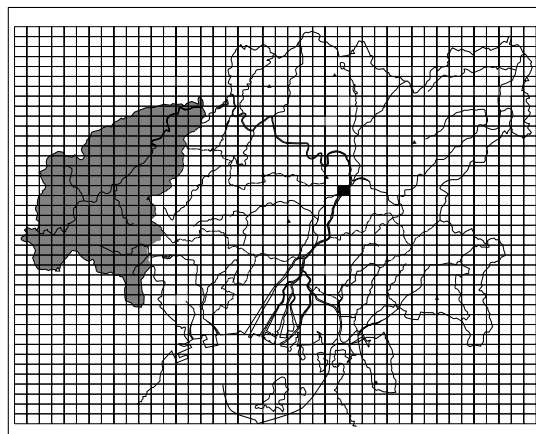
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■イシガメ（カメ目 イシガメ科）

Mauremys japonica

本州，四国，九州及び佐渡，隠岐，壱岐，対馬，五島列島に分布する。淡水性で河川，湖沼に生息するが，中・上流域に多い。県下に広く分布していたが，河川改修，中州の喪失などにより近年個体数が激減している。甲羅長は10～20cm，黄褐色をしているが，藻類の付着により黒緑色にみえる。背甲には明瞭な畝はなく，後縁がギザギザになっているのが特徴。



爬虫類

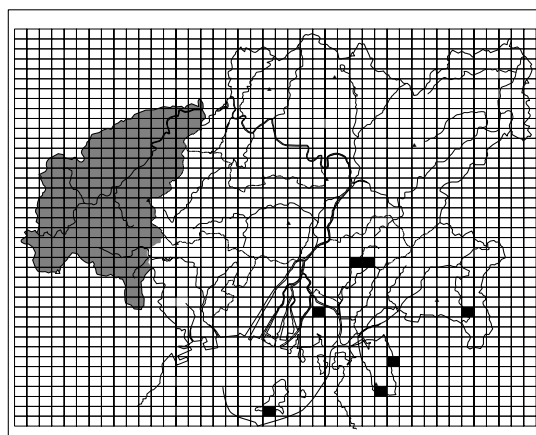
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■トカゲ（トカゲ目 トカゲ科）

Eumeces latiscutatus

北海道，本州，四国，九州及びその周辺の島々に分布する。成長すると雌雄ともに褐色になるが，幼体は黒地に金色の3本の条線があり，尾は鮮やかな青色をしている。森林よりも，人家周辺の石垣の隙間などでよく見かけたものだが，石垣のブロック化，コンクリート化により，近年急激に個体数を減じている。



は
爬虫類

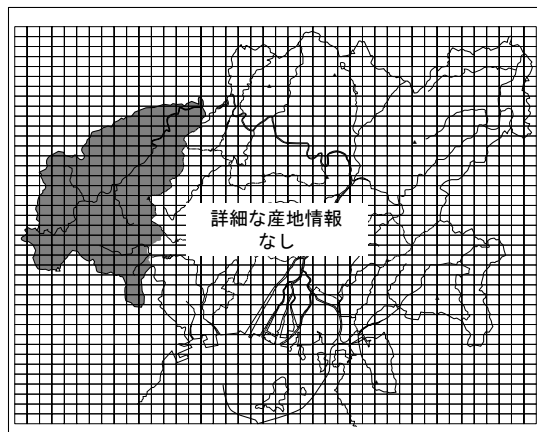
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■スッポン (カメ目 スッポン科)

Trionyx sinensis

本州，四国，九州，沖縄島，西表島，与那国島に分布する。内陸部の河川や砂泥底の湖沼に生息する。甲羅は平たく軟質で，鱗^{うろこ}は持たない。吻端の鼻は長く突き出ており，首は長い。食用にされるために個体数が減少したのか，環境の変化によるものかは明確でないが，野外では極めて個体数は少ない。



(5) 両生類

広島県には亜種を含めて、サンショウウオ目が3科6種、カエル目が4科13種生息している。広島市には、サンショウウオ目が3科3種、カエル目が4科12種生息している。サンショウウオ類は高地性の2種(ハコネサンショウウオ, ヒダサンショウウオ), カエル類は1種(ダルマガエル)を除けば, 広島県に生息する両生類のほとんどが生息していることになる。

検討の結果, イモリを環境指標種にカテゴリを変更した。

イモリはトノサマガエルなどと同様水田や用水路などを主な生息環境としているが, 基盤整備事業や用水路のコンクリート化に伴い, 生息環境を失い, 個体数が減少している。また, 水田への大型機械の導入のための冬季の乾田化が進み, 個体数が減少している。イモリは水田やハス田という環境を利用して個体数を維持していたと推測されるが, 水田の喪失により, また, 稲作の作付け方法の改変(田植えが時期的に早くなった)により生活史がかみ合わなくなっているのではないかと推測される。環境が復活し, 安定すれば, 個体数の回復も見込める。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

イモリ 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：個体数が減少しているため

(6) 淡水魚類

広島県には亜種(円口類を含む)を含めて、淡水魚類が30科93種(移入魚を含む)生息している。広島市には、30科75種(移入魚を含む)生息している。そのうち、在来種は14科 41種(周縁性魚類, 移入魚を除く)である。

前回の調査で選定されたイシドジョウ, アカザ, カジカは河床に堆積した礫間を生息場所としている種であるが, 近年の河川流量調整により, 出水が減少し, 礫間の目詰まりが生息環境を喪失させ, 個体数が減少しているものと推測される。また, 河川横断物の構築により, 遡上性魚類の減少が目立っており, カジカ, サツキマス(降海型)などは顕著な例といえよう。また, 降海する魚種で, 内湾の汚染や藻場の喪失などによって個体数が減じている種は, ゴクラクハゼ, シロウオ, スミウキゴリ, ウキゴリ, カジカ, ワカサギ(降海型), サツキマス(降海型)があげられる。ヤリタナゴ, アブラボテは淡水二枚貝の減少により個体数を減じていると考えられる。

検討の結果, ゴクラクハゼを絶滅から絶滅危惧に変更した。

ゴクラクハゼは約30年間, 未確認であったが, 内藤(2001)により太田川の高瀬堰直下より採集されたことから絶滅危惧に変更した。ただし, 採集された個体が在来の個体か, アユの放流などによって移入されたものか不明である。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

ゴクラクハゼ 絶滅危惧←絶滅

変更理由: 再確認されたため

淡水魚類

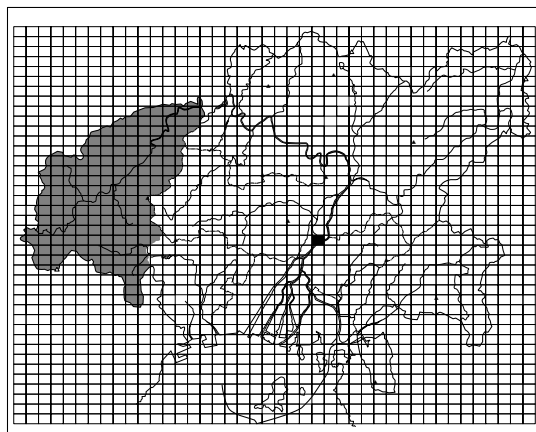
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ゴクラクハゼ (スズキ目 ハゼ科)

Rhinogobius giurinus

茨城，秋田両県以南の本州，四国，九州，琉球列島に分布する。全長8cm，河川の下流域と汽水域上限の砂れき礫底に生息する。体色は淡褐色で，頬に複雑な斑紋はんもんがある。河床の掘削，早瀬の喪失などにより，個体数を減じた。約30年間未確認であったため絶滅としていたが，高瀬堰直下より採集されたことから絶滅危惧に変更した。ただし，採集された個体が在来の個体か，アユの放流などによって移入されたものか不明である。



(7) 昆虫類

旧湯来町合併後の広島市における昆虫相の解明度は、「広島市の生物」が刊行された2000年と大きく変化はしていない。しかし、近年広島県を襲った台風などの気象災害の影響により、河川構造そのものや周辺植生の激変によって、個体数が減少した種が増加する傾向にあると考えられる。ナベブタムシは湯来町域から新たに生息地が発見されたが、市域の既知産地である宇賀峡における個体数の減少率を考慮し、新たに選定種に加えた。安佐北区の太田川河川敷におけるカワラバッタやコハンミョウ、ハマスズ、カワラスズ(広島県選定種)個体群の存続も危ぶまれる状況にある。また、東区上温品の休耕田からコオイムシが発見されたため、カテゴリを絶滅から絶滅危惧に変更し、同所で得られたコマルケシゲンゴロウとマルチビゲンゴロウについては、広島県下においても生息地が限られ、かつ市域における唯一の生息地であることから、新たに絶滅危惧に選定した。

選定種の追加

コマルケシゲンゴロウ 絶滅危惧
マルチビゲンゴロウ 絶滅危惧

選定種のカテゴリ変更

コオイムシ 絶滅危惧←絶滅
変更理由：再確認されたため

昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

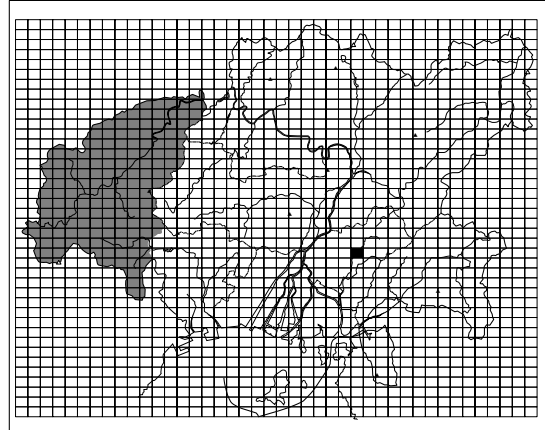
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■コマルケシゲンゴロウ（コウチュウ目 ゲンゴロウ科）

Hydrovatus acuminatus

本州，四国，九州，南西諸島に分布する。池沼の岸边や湿地化した放棄水田など，湿生植物が多く繁茂するやや浅い水域に生息する。体長2.0～2.5mmと微小であるため，発見は困難。

広島県内における確実な既知産地は倉橋島，江田島に限られていた。尾道市の記録が1938年に公表されているが，その後2004年に東区上温品で再発見されるまで本土域からの採集記録は途絶えていた。生息が確認された放棄水田は民有地のため，将来の存続が危ぶまれる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

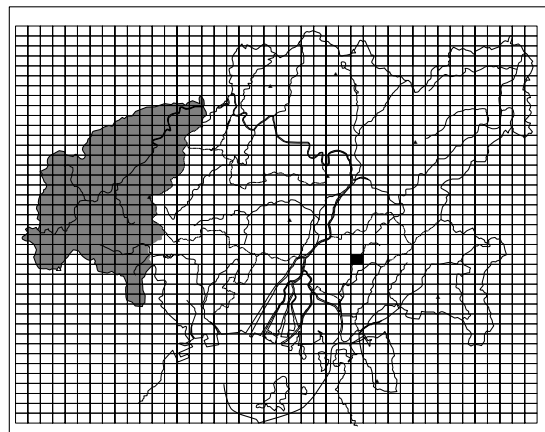
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■マルチビゲンゴロウ（コウチュウ目 ゲンゴロウ科）

Leiodytes frontalis

本州，四国，九州に分布する。池沼の岸边や湿地化した放棄水田など，湿生植物が多く繁茂する非常に浅い水域に生息する。体長1.5～2.0mmと微小であるため，発見は困難。

広島県内においては，島嶼部を含む広域から発見されているが，分布は局地的かつ不連続である。広島市域においては，2004年に確認された東区上温品が唯一の生息地で，当地の放棄水田は民有地のため，将来の存続が危ぶまれる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■コオイムシ (カメムシ目, コオイムシ科)

Diplonychus japonicus

本州, 四国, 九州に分布し, ヨシなどの抽水植物が多い池や沼に生息する。体長17~21mm。

1990年代には確実な生息地が皆無となったため絶滅として扱ったが, 2004年に東区上温品の休耕田で採集されたために絶滅危惧に変更した。同所ではコマルケシゲンゴロウとマルチビゲンゴロウの生息も確認されていることから, 移入ではなく, 自然分布であると考えられる。

